

取扱説明書

水冷式床置形

冷媒：R407C

このたびは三菱重工パッケージエアコンをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みの上、エアコンを正しくご使用ください。

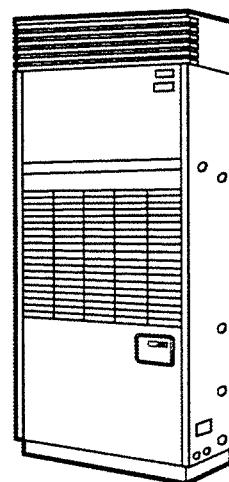
お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

わからないときは、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

お客様がご使用になっているエアコンは□のものです。

機種		製品形式	電 源
冷房専用形	直吹形	<input type="checkbox"/> DPP160 <input type="checkbox"/> DPP250 <input type="checkbox"/> DPP315 <input type="checkbox"/> DPP500	<input type="checkbox"/> 200V (50/60Hz) <input type="checkbox"/> 400V (50Hz) <input type="checkbox"/> 415V (50/60Hz) <input type="checkbox"/> 440V (60Hz)
	ダクト形	<input type="checkbox"/> DPP160T <input type="checkbox"/> DPP250T <input type="checkbox"/> DPP315T <input type="checkbox"/> DPP500T <input type="checkbox"/> DPP630 <input type="checkbox"/> DPP800 <input type="checkbox"/> DPP1000	

三菱重工
パッケージエアコン



もくじ

はじめに	1
安全のため必ずお守りください	1
上手にお使いいただくために	4
各部のなまえと 安全注意事項の表示	6
操作スイッチ部のなまえ	8

「使用前の
前に」

冷房・暖房・送風運転のしかた	10
温度設定のしかた	11
異常時の表示について	12
自動運転について	12

運
転
の
し
か
た

お手入れのしかた	13
故障かなと思ったら	17
製品の種類と騒音値	19
製品の保安上の明細	20
保証とアフターサービス について	21

お
手
入
れ
・
ア
フ
タ
ー
サ
ー
ビ
ス

はじめに

- この製品は国内向け一般空調用です。
- 食品、動植物、精密機器および美術品の保存など特殊用途には使わないでください。
- 次のような場所への設置はしないでください。多くの場合エアコンが故障する原因になります。
 - ・油（機械油も含む）の飛沫・蒸気の多い場所。
 - ・温泉地など硫化ガスの多い場所。
 - ・可燃性ガスの発生・流入などの恐れがある場所。
 - ・海岸地帯の塩分の多い場所。
 - ・酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所。
 - ・雨風が侵入するような場所（この製品は屋内設置専用機です。）
 - ・カーボン繊維（含むトナーなど）や金属粉が浮遊する場所。
 - ・煙突の煙がかかる場所。
 - ・高温度の場所。
 - ・標高1,000 m以上の場所。

- 電磁波を発生する医療機器などを使用するときは、エアコンの誤作動防止に注意してください。電磁波の発信面を、電気品箱および操作窓に直接向かわない位置に据え付けてください。電磁波の空中伝播の影響をさけるため、電磁波を発信する機器、ラジオなどは、エアコンより3 m以上離してください。元電源のON-OFF操作は短時間（10秒以内）に繰り返さないでください。
- 24時間運転など運転時間が長い使用方法の場合には、定期的な予防保全を実施する必要があります。このような使用方法の場合には、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。

ご使用の前に

記号の意味

△警告: 取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定できる場合を示します。

△注意: 取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定できる場合を示します。

留意事項: 警告・注意以外の注記事項を示します。



禁止事項を示します。



強制事項を示します。特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示です。



知っていると便利な情報を示します。



参照ページを示します。

安全のため必ずお守りください

- ご使用の前に、この「安全のため必ずお守りください」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、「△警告」、「△注意」に区分していますが、誤った取り扱いをしたときに、死亡および重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「△警告」の欄にまとめて掲載しています。しかし、「△注意」の欄に掲

載した事でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性もあります。いずれも安全に関する重要な内容を掲載していますので必ずお守りください。

- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

据付・電気工事について



- 据え付けは、お買い上げの店または専門業者に依頼してください。ご自分で据え付け工事をされ不備があると、水漏れ、感電、火災およびユニット転倒によるケガの原因になります。

- 小部屋に据え付ける場合は、冷媒が漏れても限界濃度を超えないように対策する必要があります。万一冷媒が漏れて限界濃度を超えると、酸欠事故の原因になります。詳しくはお買い上げの店にご相談ください。

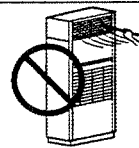
- 電気工事をするには資格が必要です。資格のある店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると感電の原因になります。

安全のため必ずお守りください(つづく)

運転中に

警告

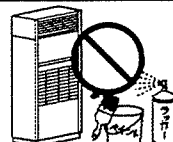
- 空気の吹出口および吸込口に指または棒などを入れたりしないでください。
内部でファンが高速回転しておりますのでケガの原因になります。



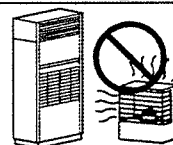
- 濡れた手でスイッチを操作しないでください。
感電の原因になります。



- エアコンを運転している部屋では引火物を使わないでください。
ラッカー、ペイントなどの可燃性スプレーおよび油（機械油も含む）の蒸気は
発火の原因になります。



- エアコンの風が直接あたる場所へ燃焼器具を置かないでください。
燃焼器具の不完全燃焼の原因になります。



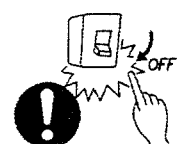
- 長時間冷風を身体に当てたり、冷やしすぎないようにしてください。
体調悪化および健康障害の原因になります。



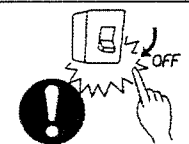
- 燃焼器具と一緒に運転するときは、こまめに換気してください。
換気が不十分な場合は、酸素不足の原因になります。



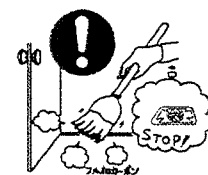
- 安全装置がたびたび作動したり運転スイッチの作動が確実でない場合は、ただちに元電源を切ってください。
漏電または過電流の可能性があるので、感電、火災および破裂の原因になります。
お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご連絡ください。



- 異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して、元電源スイッチをただちに切ってください。
異常のまま運転を続けると故障、感電および火災などの原因になります。
お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご連絡ください。

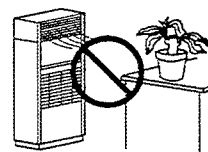


- 不燃性、非毒性、無臭性の安全冷媒（フルオロカーボン）を使用していますが、
万一フルオロカーボンが漏れて火気に触れると有害ガスが発生する原因になります。
また、フルオロカーボンは空気より比重が重いので、床面付近をお
おい酸素欠乏の原因になります。
- 万一フルオロカーボンが漏れたときには、ストーブなどの火気を消して床面
を掃くようにして換気したうえで、お買い上げの店またはメーカー指定のお
客様ご相談窓口にご連絡ください。



注意

- 動植物に直接風があたる場所には設置しないでください。
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。



使用前に

安全のため必ずお守りください(つづき)

修理・移設について



- エアコンを修理または移設するときは、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
修理や据え付けに不備があると、感電および火災の原因になります。



その他の警告および注意

- 火災が発生した場合は、ただちにエアコンの元電源を切ってください。
感電の原因になります。



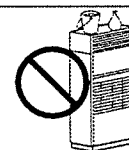
- お手入れの際は、必ずエアコンの元電源を切ってください。
感電の原因になります。
また、遠方操作や停電自動復帰運転により、運転スイッチを押さなくても運転することがあるため、電源を切らずにカバーを開けている場合には、ファンの回転などによりケガの原因になります。



- お手入れのときなど、内部に水を入れないようにしてください。
電気品に水がかかると感電の原因になります。



- エアコンの上に、花瓶など水が入った容器を載せないでください。
エアコン内部に浸水して電気絶縁が劣化し、感電の原因になります。



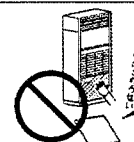
- 製品および電気配線の改造変更をしないでください。
重大事故の原因になります。



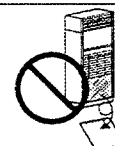
- 製品を改造したり純正部品以外を組み込まないでください。
重大事故の原因になることがあります。
やむをえず改造したり純正部品以外を組み込む場合は、当社は責任を負い兼ねますので、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口までご相談ください。



- エアコンの機械室および送風機室内部には触らないでください。内部には保護装置およびプリント板などがあります。これらに触ったり、設定値を変更したり、電気配線の改造変更をすると感電および火災の原因になります。



- エアコンのサービスカバーやパネルを外したまま運転しないでください。
電気部品の通電部分に触ると感電の原因になります。



- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。
大きなヒューズや針金などを使用すると発熱の原因になります。



- エアコンの配管内には冷媒が封入されているため高圧になっております。資格者以外は配管接続部を緩めたり、外したりしないでください。
資格者以外が作業をすると重大事故の原因になります。



ご使用の前に

安全のため必ずお守りください

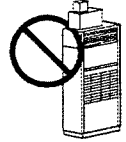
その他の警告および注意

⚠
注意

●吸込グリル、フィルターの取り付けおよび取り外し時は手でしっかり保持してください。
落下および傷害の原因になることがあります。



●エアコンの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
落下および転倒などによりケガの原因になることがあります。



●一度運転を停止して、再び運転をするときは、3分以上待ってください。
停止後3分間は運転スイッチを押しても圧縮機は運転しません。運転を停止し、電源を切った場合には、次の運転まで少なくとも3分間以上おいてから電源を投入し、運転スイッチを押してください。圧縮機焼損の原因になることがあります。



●運転開始12時間以上前に元電源スイッチを入れてください。オイルヒーターに通電し、圧縮機を予熱するためです。
元電源を入れた後すぐに運転スイッチを入れると、圧縮機が冷えた状態で始動し、故障の原因になることがあります。



●複数台を共通のダクトで運転する場合は、風量の低下により圧縮機焼損の原因になることがあります。
操作方法については、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。



●当社指定以外の電気加熱器を組み込まないでください。
異常過熱による火災の原因になることがあります。



●保守点検を実施してください。送風機用Vベルトの寿命により、送風機が停止した状態で運転しますと故障の原因になります。



ご使用前に

上手にお使いいただくために(つづく)

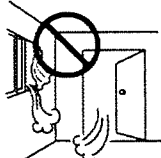

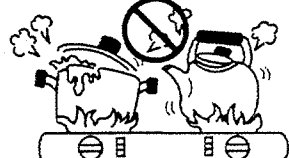
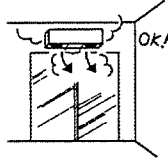
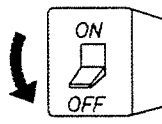
次の範囲でお使いください

区分	条件	吸込空気温度およびエアコン周囲温度
冷房運転		約21℃以上30℃以下(乾球)(相対湿度約80%以下)
暖房運転		17℃以上24℃以下(乾球)

注) 1. 上記範囲外の場合は機械の保護装置が働いて、運転ができないことがあります。
また、運転できても機械の寿命を縮めることになります。

上手にお使いいただくために (つづき)

効果的にお使いいただくには

<p>窓および出入口は開けたままにしない</p>	<p>窓には、カーテンまたはブラインドを</p>	<p>冷房中は発熱器具をできるだけ使わない</p>
<p>運転効率が悪くなります。室内ユニットの結露の原因になります。</p>  <p>(換気にも十分注意してください。)</p>	<p>直射日光をふせぎ、冷房効果が良くなります。</p> 	<p>冷房効果が弱くなります。露付き、落下の原因になります。</p> 
<p>天井に熱い空気がこもる場合は、サーキュレーターのご使用を</p>	<p>長期間使用しないときは元電源スイッチを切る</p>	
<p>快適性が向上します。詳しくはお買い上げの店にご相談ください。</p> 	<p>元電源スイッチを切らないと、エアコンを使用しない期間も電気代の基本料金分の電気代を全額支払わなくてはなりません。 (お支払いの金額はご契約条件により異なりますのでご注意ください。)</p>  <p>シーズンオフはOFF</p>	
<p>約1カ月に一度フィルターを点検掃除する</p>	<p>エアコンの吹出空気がショートサーキットしないように設置する</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● ほこりで詰まると冷房効果が下がります。 ● お手入れ方法 (P.13, 14 ページ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● エアコンに隣接するユニットなどの吹出風を直接吸い込まないようにしてください。 	

ご使用前に

冷・暖房を十分に行きわたらせるには

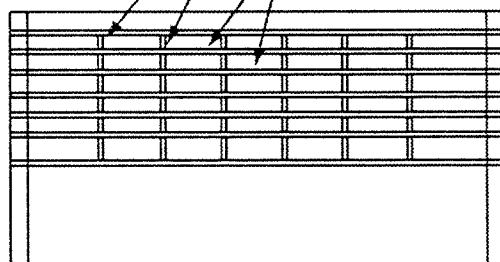
お部屋全体に風が行きわたり、室温がほぼ均一になるように羽根を手で調節してください。
また、冷風や温風が直接お肌に当たらないように風の向きを調節してください。

留意事項

- 縦羽根は固定式になっていますので、左右方向の風向の調節は、初期設定した後に再度しないでください。
風向の調節を繰り返しますと、縦羽根が外れる場合があります。





縦羽根で風の左右方向の調節をします。

横羽根で風の上下方向の調節をします。

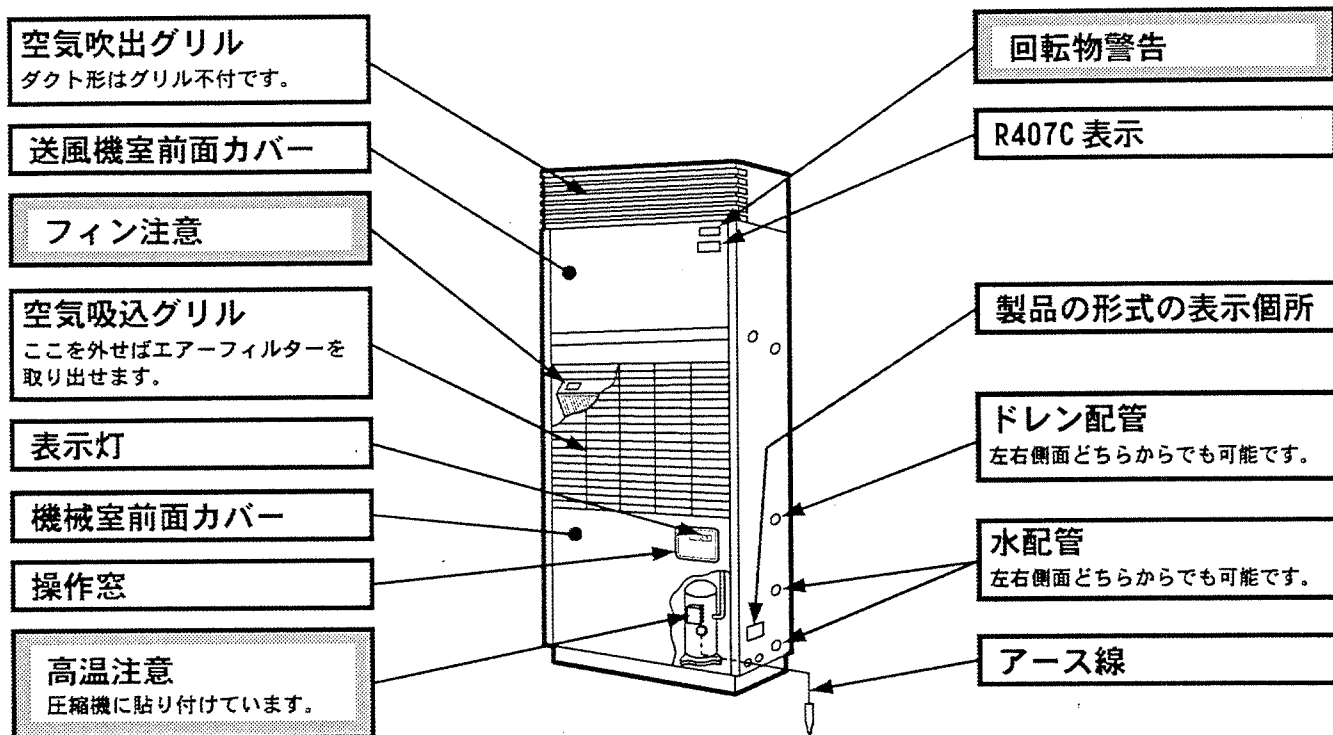


各部のなまえと安全注意事項の表示(つづく)

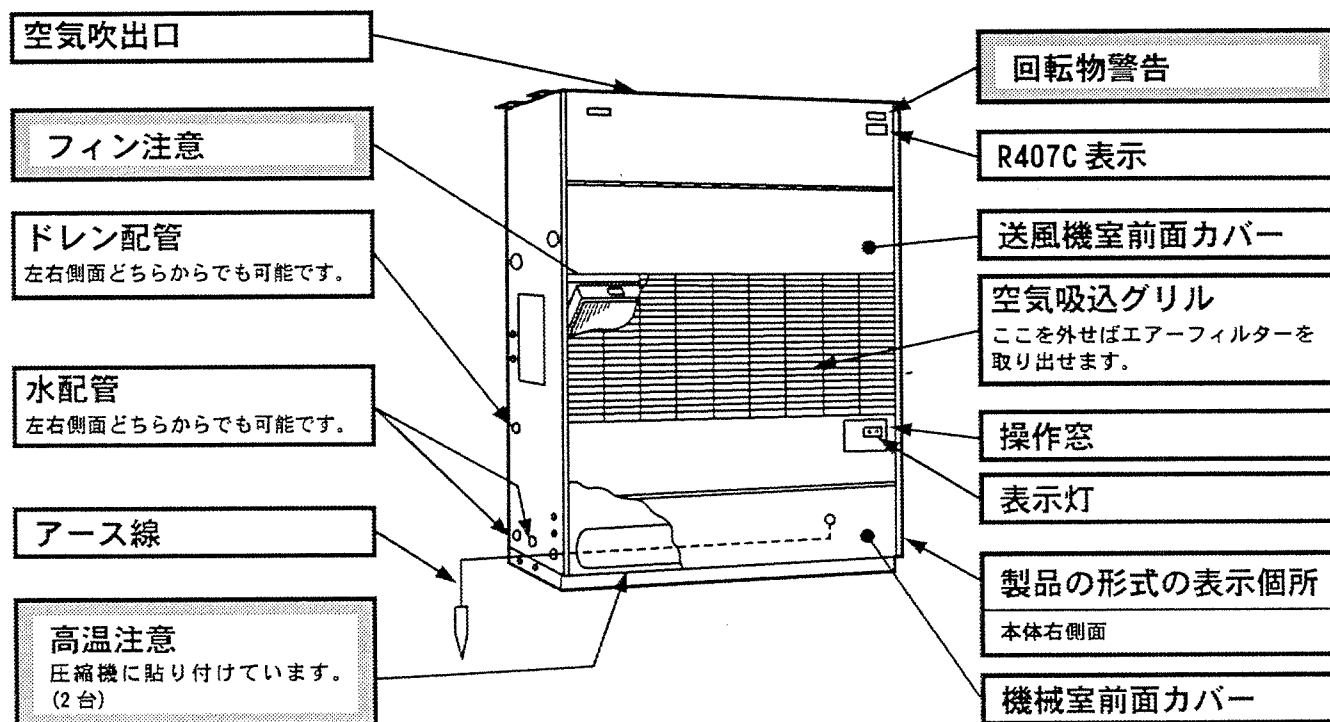
- お買い上げのエアコンにはお使いになる方が安全にお使いいただくため、エアコン本体に安全注意事項の表示をしています。ご使用の際やお手入れの際は安全のため、注意事項を必ずお守りください。

安全注意事項	回転物警告	フィン注意	高温注意	上乗り注意
表示内容	⚠警告  ケガの恐れあり 指や棒を入れないで ください。	⚠注意  ケガの恐れあり フィンに直接手を触 れないでください。	⚠注意  やけどの恐れあり 圧縮機や配管などに 手を触れないでくだ さい。	⚠注意  転倒、ケガの恐れあり ユニットの上に乗ら ないでください。

形式：DPP160(T), DPP250(T), DPP315(T)

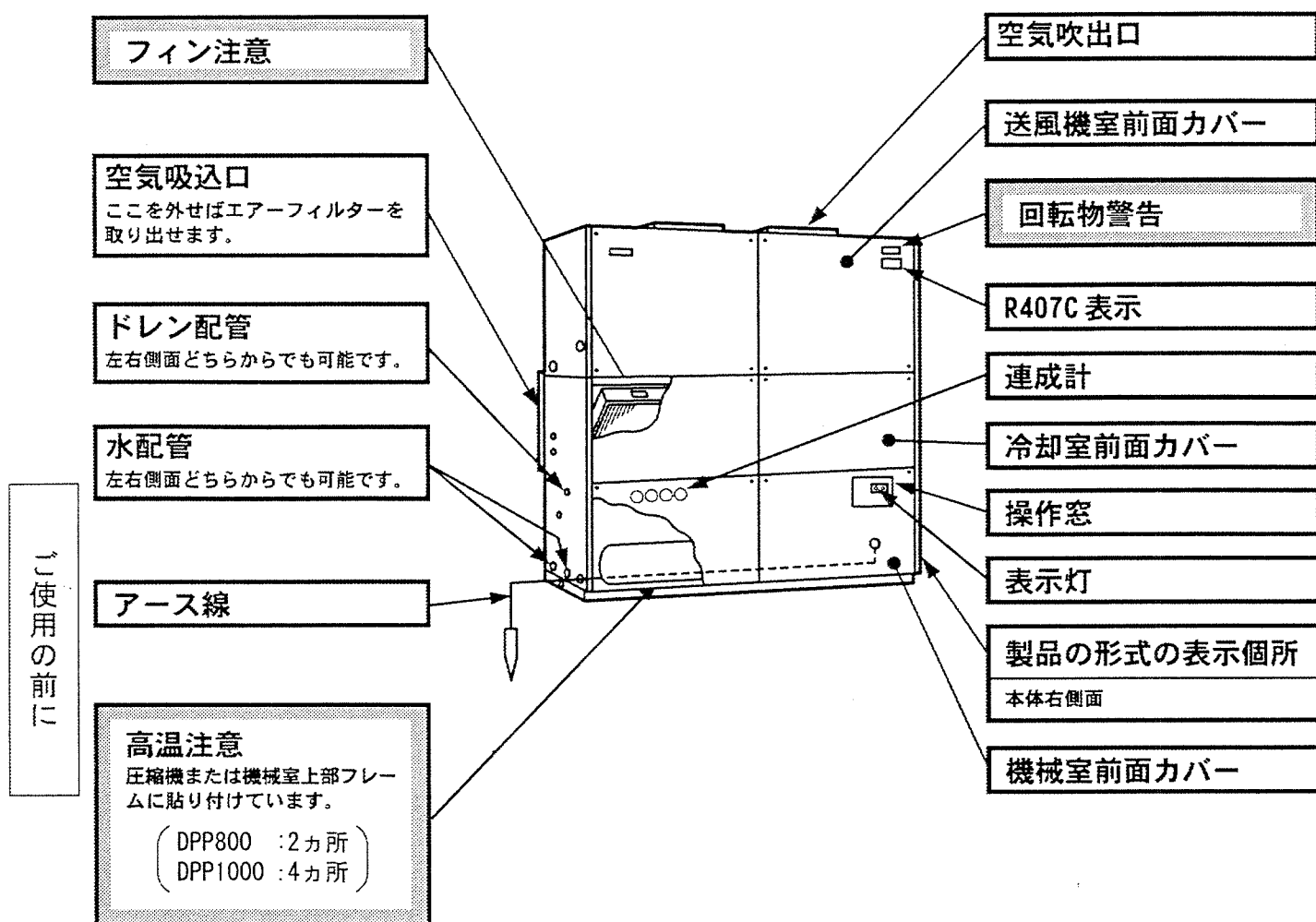



形式：DPP500(T), DPP630



各部のなまえと安全注意事項の表示(つづき)

形式 : DPP800, DPP1000



製品の形式の表示個所	● 形式の表示個所 に示す位置に製品の形式を表示した装置銘板を貼り付けています。
安全注意事項の表示個所	● 上図中の  に示す位置に貼り付けています。

操作スイッチ部のなまえ (つづく)

操作部

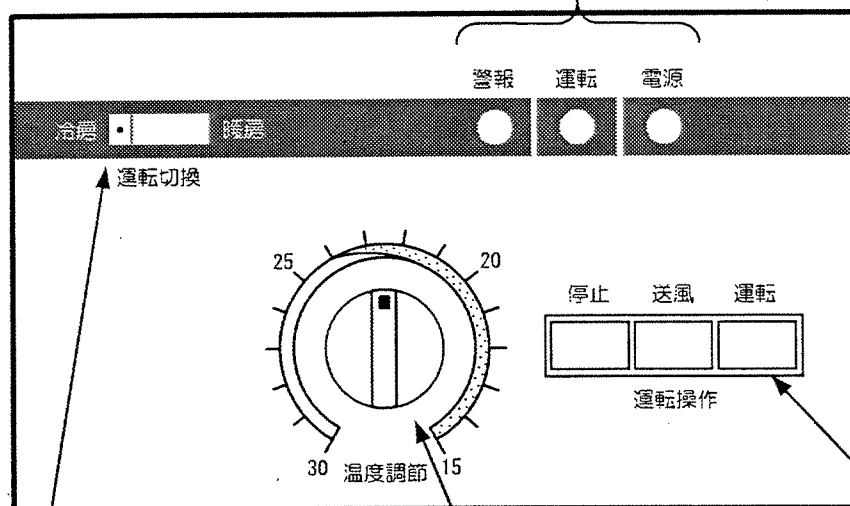
注意事項

- 運転操作スイッチは確実に押してください。

形式 : DPP160 (T) ~ DPP315 (T)

表示灯

緑色	電源
赤色	運転
橙色	警報



運転切換スイッチ

温度調節ツマミ

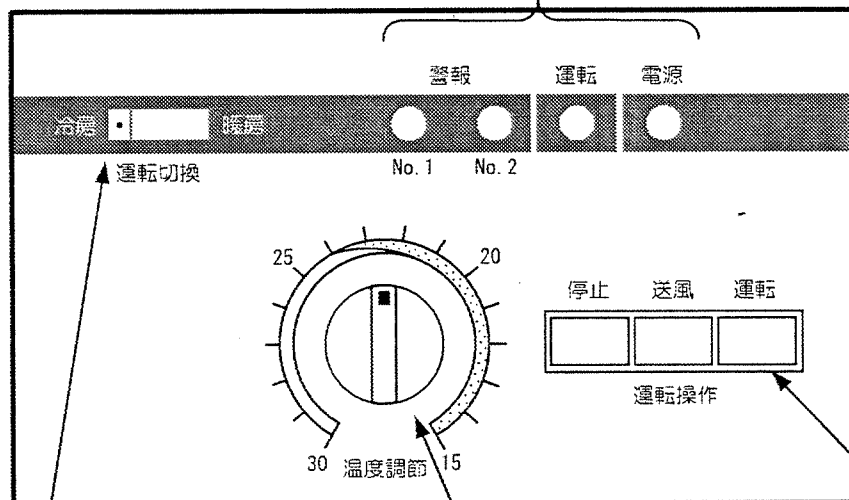
運転操作スイッチ

ご使用の前に

形式 : DPP500 (T) ~ DPP800

表示灯

緑色	電源
赤色	運転
橙色	警報



運転切換スイッチ

温度調節ツマミ

運転操作スイッチ

操作スイッチ部のなまえ (つづき)

操作部

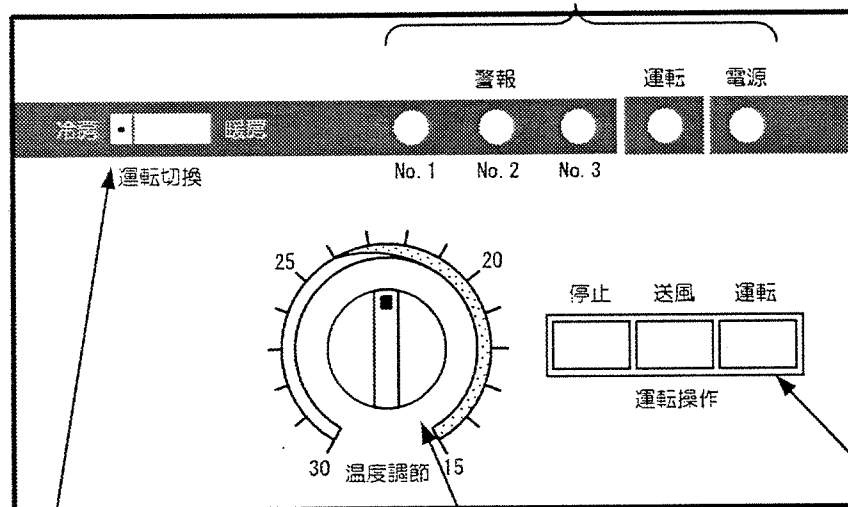
注意事項

- 運転操作スイッチは確実に押してください。

形式 : DPP1000

表示灯

緑色	電源
赤色	運転
橙色	警報



ご使用の前に

運転切換スイッチ

温度調節ツマミ

運転操作スイッチ

冷房・暖房・送風運転のしかた(つづく)

この製品は冷房専用機のため暖房運転はできません。ただし、オプションの加熱器を組み込むことにより暖房運転が可能です。

注意事項

- 温水または蒸気加熱器を組み込んでいる場合はエアコン停止後、すみやかに加熱器の温水または蒸気の出口・入口弁を閉めてください。エアコン内の温度が上昇して、部品の劣化を早める原因になることがあります。
- 圧縮機保護のため、運転を開始する12時間以上に電源を入れてください。
- 運転操作スイッチは確実に押してください。

運転と働き

- **冷房運転** お部屋の空気を冷やします。
- **暖房運転** お部屋の空気を暖めます。
- **送風運転** 室内の空気を循環させます。

メモ おすすめ**経済温度**は次のとおりです。

- 冷房運転 27～29℃
- 暖房運転 18～20℃

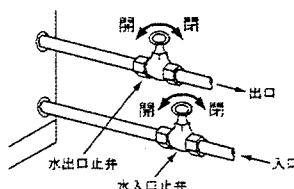
準備

電源を入れます。

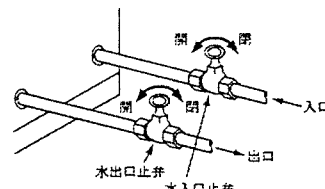
圧縮機保護のため、運転を開始する12時間以上に電源を入れてください。
シーズン中は電源を切らないでください。

冷房運転をする場合は、冷却水出口・入口弁を開き、ポンプを運転します。

冷房シーズン中は冷却水出口・入口弁を「開」の状態にしてください。



DPP160(T) ~ DPP315(T)



DPP500(T) ~ DPP1000

冷房運転をする場合

運転切換スイッチを**冷房**にセットします。

1



暖房運転をする場合

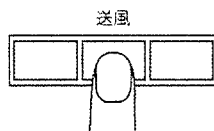
運転切換スイッチを**暖房**にセットします。



2

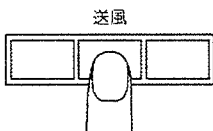
運転操作スイッチの**送風ボタン**を押します。

送風機の運転が始まります。
運転(赤色)表示灯が点灯します。



運転操作スイッチの**送風ボタン**を押します。

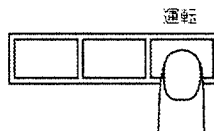
送風機の運転が始まります。
運転(赤色)表示灯が点灯します。



3

運転操作スイッチの**運転ボタン**を押します。

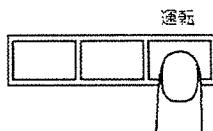
圧縮機の運転が始まり、エアコンから徐々に冷たい風が出てきます。



運転操作スイッチの**運転ボタン**を押します。

電気加熱器に通電され、エアコンから徐々に暖かい風が出てきます。

(電気加熱器はオプションです。)



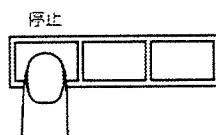
運
転
の
し
か
た

冷房・暖房・送風運転のしかた (つづき)

停止

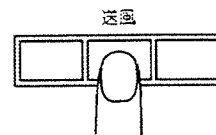
運転操作スイッチの**停止ボタン**を押します。

運転(赤色)表示灯が消えます。



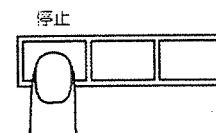
運転操作スイッチの**送風ボタン**を押します。

送風運転で3分以上そのまま運転してください。



運転操作スイッチの**停止ボタン**を押します。

運転(赤色)表示灯が消えます。
強制余熱排除機能をセットしている場合は、停止ボタンを押しても、送風機は約2分後に停止します。



温度設定のしかた

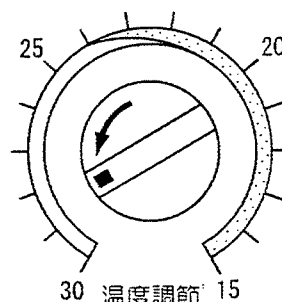
温度

温度調節ツマミを**左に回すと高くなり、右へ回すと低くなります。**

冷えずぎ、暖まりすぎにならないように温度を調節してください。

おすすめ温度

冷房運転	27 ~ 29℃	暖房運転	18 ~ 20℃
------	----------	------	----------



運
転
の
し
か
た

暖房したいときは

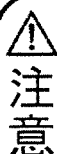
暖房したいときには、本エアコンに空気加熱器を取り付けることができますので、お買い上げの店にご相談ください。空気加熱器を取り付けますと、お部屋を暖房することができ、四季を通じて快適な環境を作ることができます。

空気加熱器には蒸気、温水、電気の三種類がありますので、適当な物をお選びください。
空気加熱器の最大容量は下表のようになっています。また、暖房運転中の室内の乾燥を防ぐため加湿器を取り付けたい場合には、お買い上げの店にご相談ください。

	DPP160 DPP160T	DPP250 DPP250T	DPP315 DPP315T	DPP500 DPP500T	DPP630	DPP800	DPP1000
蒸気加熱器	23.8kW	33.7kW	44.2kW	58.1kW	87.2kW	105kW	122kW
温水加熱器	20.9kW	31.4kW	40.7kW	58.1kW	87.2kW	105kW	122kW
電気加熱器	15kW	24kW	30kW	40kW	45kW	60kW	75kW

注) 1. 電気加熱器は最大容量を示します。


2. 運転条件：吸込空気温度 18℃、蒸気圧 35kPa、温水入口温度 80℃、温水出口温度 68℃



- 当社指定以外の電気加熱器を組み込まないでください。
異常過熱による火災の原因になることがあります。

異常時の表示について

異常時の表示

異常	<p>操作スイッチ部分の電源、運転、警報表示灯が点滅します。</p> <p>警報表示灯の点滅内容(点滅間隔)を確認して、お買い上げの店にご相談ください。</p>	<div style="text-align: center;"> <div>警報 運転 電源</div>  <div>No. 1 No. 2 No. 3</div> </div> <p>注)機種により警報表示灯の数が異なります。</p>
停電	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての表示が消えます。 ● 停電などで運転が止まると、再び通電されても再運転しません。運転操作をやり直してください。 ● 約2秒までの瞬時停電の場合は、自動的に再運転します。 	
ノイズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての表示が消え、運転も停止することがあります。これはノイズの影響で装置保護のためマイコンが作動したものです。運転操作をやり直してください。 	

自動運転について

自動で次の運転をします

3分ガード		圧縮機保護のために、運転停止後、最低3分間は再運転しません。約3分後には自動的に再運転します。
冷房	凍結防止	エアコンの熱交換器の温度が異常に下がると自動的に圧縮機を停止し、送風運転をして熱交換器が凍結するのを防止します。
暖房	余熱排除	暖房運転停止時、エアコン内部の温度を下げるために、最大約2分間送風運転をする場合があります。

お手入れのしかた



- 必ずエアコンの元電源を切ってから作業してください。感電の原因になります。
- お手入れの際、足場はしっかりしたものを使用してください。転倒および傷害の原因になります。



- 吸込グリルおよびフィルターの取り付け、取り外し時はしっかり保持してください。落下および傷害の原因になることがあります。

日常のお手入れ

エアーフィルターの掃除のしかた



エアーフィルターの掃除は定期的に

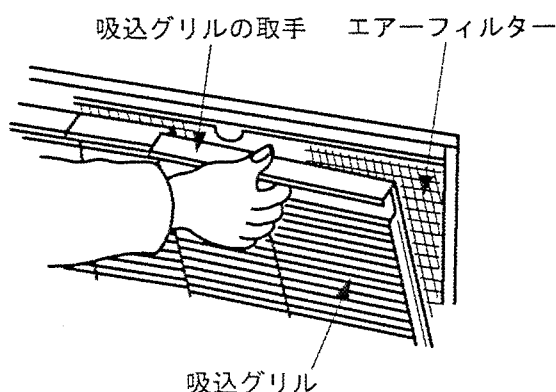
- エアーフィルターの目づまりは能力の低下、または故障の原因になることがあります。
エアーフィルターの点検掃除は、事務所などの汚れの少ない所では6ヵ月ごとに1回程度、縫製所、調理場などの汚れの多い場所でご使用の場合は、1ヵ月に1回程度を目安として掃除してください。

1 エアーフィルターを取り出します。

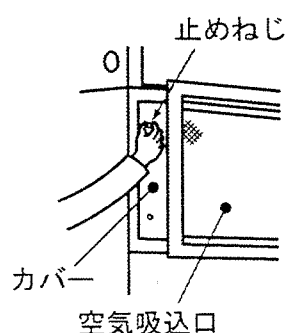
- エアーフィルターは吸込グリルまたは空気吸込口カバーの後ろに挿入されています。

DPP160(T)～DPP630 の場合

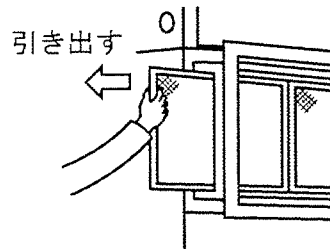
- 吸込グリルの取手に手をかけ、手前に引いて吸込グリルを開けます。
その後、エアーフィルターを持って上に引き出してください。



DPP800, DPP1000 の場合



空気吸込口カバーの止めねじを外し、カバーを外します。

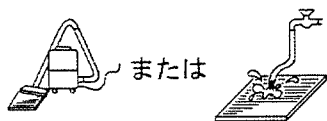


フィルターを引き出します。
フィルターは片方から引き出せるように連結されていますので、抜き出しながら1枚ずつ取り外します。

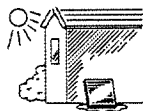
お手入れのしかた(つづく)

2 掃除します。

- エアーフィルターの汚れは電気掃除機で取り除くか、水および中性洗剤で洗い流してください。



- エアーフィルターは日陰で自然乾燥させてください。



留意事項

- 直火、ドライヤー、ヒーターなどで乾かさないでください。エアフィルターの変形の原因になることがあります。

3 エアフィルターを取り付けます。

- エアフィルターが乾いたら、必ず元どおり収納部に正しく入れてください。

4 吸込グリルまたは空気吸込口カバーを閉めます。

留意事項

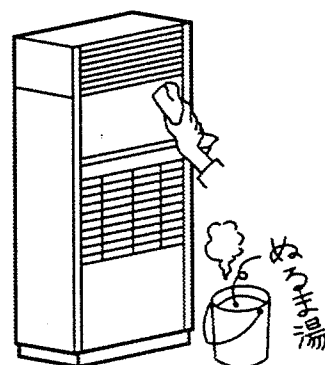
- エアフィルターを取り付けてください。外したまま運転すると故障の原因になることがあります。

吸込グリル、吹出グリルのお手入れ

ぬるま湯を含ませた柔らかい布を固く絞って拭いてください。

留意事項

- 吸込グリル、吹出グリルのお手入れには柔らかい布を使ってください。ベンジン、シンナー、洗剤(界面活性剤入り)などを使うと変形、塗装はがれおよび傷の原因になることがあります。



吸込グリルは取り外して掃除することができます。

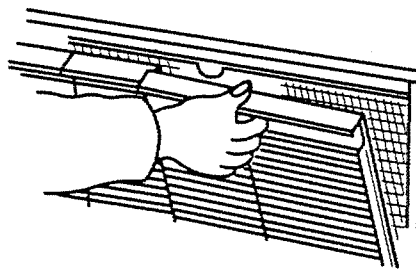
1 吸込グリルを開けます。

2 吸込グリルを取り外します。

3 掃除します。

4 吸込グリルを取り付けます。

- 取り付けは、取り外したときの逆の手順で行います。



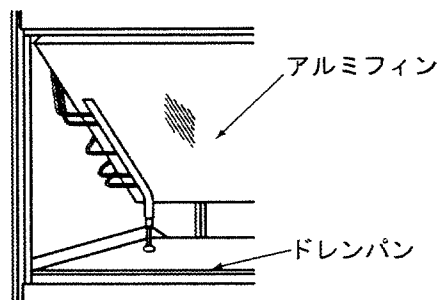
お手入れのしかた(つづき)

ドレンパンのお手入れ

1ヵ月に1度ぐらい点検し、汚れているときはごみを布でふき取ってください。

留意事項

- ドレンパンにごみなどがたまりますと、排水口がふさがって水が機械の外に出ることがあります。
- アルミフィンに素手で触らないでください。ケガの原因になることがあります。



/// シーズン始めと終わりのお手入れ ///

シーズン 始め

- エアコンの吸込グリルおよび空気吹出口の障害物を取り除いてください。
- エアコンのエアーフィルターがつまっていないことを確認してください。

シーズン 終わり

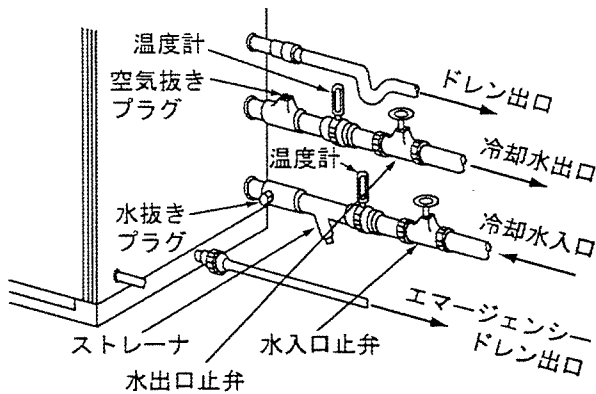
- エアーフィルター、吸込グリル、吹出グリルおよびドレンパンを掃除してください。
- 凝縮器内の水を抜いてください。
- 外板の汚れをふき取り、吹出グリルを取り付けてください。

お手入れのしかた

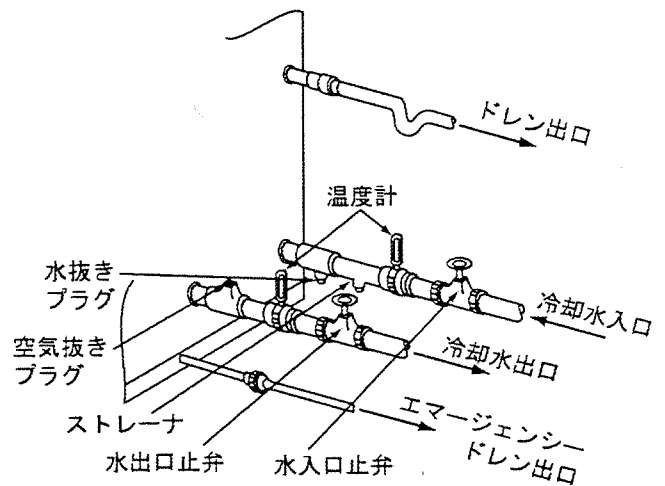
凝縮器内の水を抜く方法

凝縮器内の水を抜かずに冬期を迎えますと、凝縮器内の水が凍結して、冷却管が破裂する恐れがあります。

- 冷却水出口・入口配管に付いている止弁が全閉されていることを確認してから水抜きプラグおよび空気抜きプラグを取り外し、両方から凝縮器の水を完全に抜いてください。



DPP160(T) ~ DPP315(T)



DPP500(T) ~ DPP1000

故障かなと思ったら

/// こんなときは故障ではありません ///

症 状		原 因
運転が止まる	停電があったとき。	運転操作を初めからやり直してください。 なお、約2秒までの瞬時停電の場合は自動的に再運転します。
霧が出る	飲食店、厨房などで使用している場合。	油脂類がフィンに多量に付着すると熱交換が悪くなり、霧を発生させることがあります。 ●フィレドフィルターの使用をおすすめします。詳しくはお買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
においが出る	運転中、室内ユニットから吹き出す風がくさい。	タバコの煙や部屋のにおいなどが室内ユニット内部に付いたためです。 エアーフィルター、吸込グリルおよび外装のお手入れや送風運転で換気を十分してからご使用になると効果がある場合があります。
音が出る	運転の始めや運転の終わりのときに「ミシッ」という音がする。	樹脂部品が温度の変化によって伸縮して、相手部品とこすれる音です。
	運転中に「シュー」という水の流れる音や「ボコボコ」という水が沸騰するような音がする。	冷媒が流れる音です。特に運転開始時や圧縮機停止時に聞こえる場合があります。
露がつく	グリルやキャビネットに結露または露が落下する。	冷房運転中、エアコンの吸込空気および周囲の温度・湿度が、およそ乾球27℃、相対湿度80%程度を超える高湿度の雰囲気にて長時間運転すると、キャビネットへの露付や露落下する場合があります。

故障かなと思ったら(つづく)

/// 修理を依頼される前にお調べください ///

症 状		調べるところ	運転を再開するとき
運転しない		エアコンの元電源は入っていますか。	エアコンの元電源を入れてください。
		元電源のヒューズやブレーカーが切れていませんか。	ヒューズの交換または、ブレーカーを入れてください。 再発する場合は、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口へご相談ください。
運転するが すぐ止まる	冷房時	冷却水用ポンプが停止していませんか。 冷却水出口・入口止弁が閉じていませんか。	冷却水用ポンプを運転し、冷却水出口・入口止弁を開いてください。
	暖房時	エアコンの空気吸込口や空気吹出口の近くに風の妨げになるものがありますか。 吹出空気がそのまま空気吸込口に吸い込まれていませんか。	風の流れの妨げになっている物を取り除いてください。
よく冷えない、 よく暖まらない		運転モードは適正ですか。	送風運転になっている場合は冷房(暖房)運転モードに切り換えてください。
		設定温度は適正ですか。	温度調節ツマミの設定温度を確認してください。 (P 11ページ)
		風の吹出方向は適正ですか。	吹出方向を変えてみてください。 (P 5ページ)
		エアーフィルターが目づまりしていませんか。	エアーフィルターの交換または掃除をしてください。 (P 13, 14ページ)
		部屋の窓や戸が開いていませんか。	窓や戸を閉めてください。
		エアコンの空気吸込口や空気吹出口のまわりに障害物がありますか。	障害物を取り除きます。

故障かなと思ったら(つづき)

修理を依頼するときは

●前ページの点をお調べいただいても調子が良くならないとき、また、前ページの点以外の症状があるときは使用を中止してお買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご連絡ください。

お買い上げの店にご連絡
のときお知らせください

- 1 形式 ー形式の表示個所は(図 6, 7ページ)
- 2 故障の症状 ーできるだけ詳しく
- 3 表示灯点灯の有無 ー運転および故障表示灯の点滅内容(点滅間隔)

製品の種類と騒音値

項目 \ 形式		DPP160	DPP250	DPP315	DPP500
種類	機能	冷房専用形			
	ユニット構成	一体形			
	凝縮器の冷却方式	水冷式			
	送風方式	直接吹出形			
電源	三 相	200V 3φ 50/60Hz, 400-415V 3φ 50Hz, 415-440V 3φ 60Hz			
騒音値 (dB)		51	54	56	61

項目 \ 形式		DPP160T	DPP250T	DPP315T	DPP500T
種類	機能	冷房専用形			
	ユニット構成	一体形			
	凝縮器の冷却方式	水冷式			
	送風方式	ダクト接続形			
電源	三 相	200V 3φ 50/60Hz, 400-415V 3φ 50Hz, 415-440V 3φ 60Hz			
騒音値 (dB)		53	56	57	61

項目 \ 形式		DPP630	DPP800	DPP1000
種類	機能	冷房専用形		
	ユニット構成	一体形		
	凝縮器の冷却方式	水冷式		
	送風方式	ダクト接続形		
電源	三 相	200V 3φ 50/60Hz, 400-415V 3φ 50Hz, 415-440V 3φ 60Hz		
騒音値 (dB)		64	65	66

留意事項

騒音値は反響の少ない無響室などの部屋で、製品正面 1m、地上高さ 1m の測定位置における値(A スケール)を示します。実際の据え付け状態では、周囲の騒音や反響を受け、表示値より大きくなります。据え付けにあたっては据え付け場所の環境に十分ご注意願います。

製品の保安上の明細

下記の製品は法定冷凍能力5トン以上の製品となるため、高圧ガス保安法に基づき冷媒ガスの圧力を受ける部分の材料、構造を遵守し、圧力試験が実施されています。

冷媒ガスの圧力を受ける部分の部品を交換または修理される場合(法定冷凍能力5トン以上)は、資格(冷凍機器製造事業所)のあるサービス工事に依頼されるようお願いいたします。

形式			DPP500 DPP500T	DPP630	DPP800	DPP1000	
項目							
法定冷凍能力 (50/60Hz)		トン	4. 41/5. 31	5. 64/6. 80	6. 34/7. 66	8. 46/10. 2	
冷 媒			HFC (R407C)				
許容圧力	高圧部	MPa	2. 5				
	低圧部	MPa	1. 6				
高圧遮断装置の 設定圧力		MPa	2. 45				
圧縮機	形 式		G600DH G1000EL	G1000EL	G1200EL	G1000EL	
	台 数		各1	2	2	3	
	許容圧力	高圧部	MPa	3. 0			
		低圧部	MPa	1. 6			
蒸発器	形 式		多通路クロスフィン式				
	許容圧力		MPa	1. 6			
	台 数		1				
	主要材料		G1220T-0(リン脱酸継目無銅管)				
凝縮器	形 式		2重管コイル式				
	許容圧力		MPa	2. 5			
	台 数		2			3	
	主要材料		STPG370 (圧力配管用炭素鋼鋼管)				
ユニット 気密試験圧力	高圧部	MPa	2. 5				
	低圧部	MPa	1. 6				

保証とアフターサービスについて

保証について【保証期間は納入日から起算して1年間です。】

この製品には保証書が付属しています。

- 保証書はお買い上げの店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ、大切に保存してください。
- 保証期間中万一故障したときは、お買い上げの店または指定のサービス店にご連絡ください。
保証書記載事項に基づいて1年間は無償修理いたします。[保証期間経過後の修理は有償になります。]
保証期間中でも有償になることがありますので、保証書をよくお読みください。
なお、エアコンの故障に起因した営業補償などの2次補償はいたしません。
- 良好な状態でエアコンをお使いいただくため、お客様の行う日常点検(フィルター清掃など)以外に専門技術者による定期的な保守点検を実施してください。
標準的な保守点検の、「点検周期」および定期点検に伴う「保全周期」[主要部品の交換・修理実施周期]は下表を目安にされると便利です。(本表は主要部品を示します。詳細は保守契約に基づいて確認してください。)
なお、保守点検は契約会社によって若干内容の違いがありますので、契約時によくお確かめください。

機器予防保全の目安

ご使用条件：(1) 頻繁な発停の無い、通常のご使用状態であること。

(2) 製品稼動時間は10時間/日、2,500時間/年と仮定します。

運転状況によっては点検周期および保全周期が異なります。例えば下記の項目に適合するときには、「点検周期」および「保全周期」の短縮を考慮する必要があります。

- ・ 温度、湿度の高い場所または、その変化の激しい場所でご使用される場合。
- ・ 電源(電圧、周波数、波形歪みなど)や負荷変動が大きい場所でご使用される場合。
- ・ 振動、衝撃が多い場所に設置され、ご使用される場合。

留意事項

表中の保全周期は保証期間を示すものではありません。

主要部品名	点検周期	保全周期 [交換または修理]
圧縮機	1年	20,000時間
モーター(ファン用)		20,000時間
ベアリング		15,000時間

消耗部品(代表例): フィルター、ファンベルト、ヒューズ、表示灯、その他

注: 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。

この保全周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、交換行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全計画(保守点検費用の予算化など)のためにお役立てください。

- 故障の発生は、定期点検実施の場合でも、予期できない突発的偶発故障が発生する場合があります。
この場合、保証期間外での故障修理は有償になります。
- 補修用性能部品の保有期間について
このエアコンの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後9年間となっています。
この期間は経済産業省の指導によるものです。当社は、この基準により補修用性能部品を調達したうえ、修理によって性能を維持できるときは、お客様のご要望により有償修理いたします。
補修用性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品のことです。

▶ 保証とアフターサービスについて —

/// アフターサービスご契約のおすすめ ///

- パッケージエアコンをいつも最良の状態で運転するためには、一定の基準で点検し、また運転の程度に応じて部品の調整・補修および交換をする必要があります。(送風機ベアリングの点検やVベルトの張り調整などが定期的に必要です。)
- 当社指定のサービス店と保守契約(有料)いただければ、パッケージエアコン専門のサービスマンがお客様に代わって点検をします。万一の故障のときも早期に発見し、適切に処置をすることができます。

/// 移設および廃棄について ///

- 転居などでエアコンを移動再設置する場合は専門の技術が必要ですので、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
- エアコンを長年お使いになったあと廃棄されるときは、冷媒の回収などが必要ですのでお買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
- このエアコンはフロン回収・破壊法の第一種特定製品です。
 - (1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
 - (2) この製品を廃棄する場合には、フロン類の回収が必要です。
 - (3) フロン類の種類および数量は、製品に貼り付けの装置銘板または冷媒銘板(注意銘板)に記載されています。

お客様メモ

後日のために記入してお客様にお渡しください。お客様がサービスを依頼されるときに、お役に立ちます。

お買い上げ店名

電話

(

)

—

お買い上げ年月日

年

月

日

お客様ご相談窓口

アフターサービスはお買い上げ店にご依頼ください。なお、転居その他の理由でお買い上げ店にアフターサービスを依頼することができない場合は、下記のお客様相談センターにご相談ください。(電話番号は予告無く変更することがありますので、ご了承ください。)

三菱重工空調システム株式会社 サービス本部

お客様相談センター (修理受付、部品、技術相談) 0120-975-365



冷熱事業本部 〒452-8561 愛知県西春日井郡西枇杷島町旭町3-1